

施策評価シート

令和 5 年度

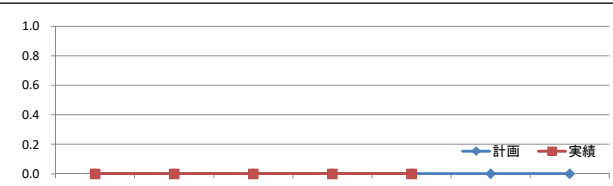
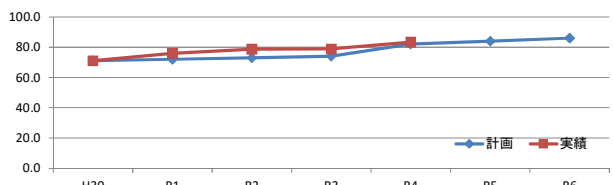
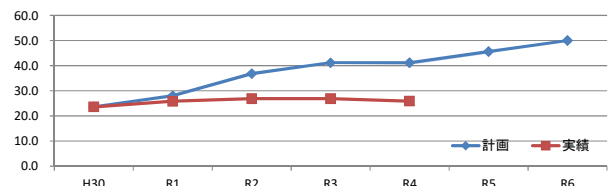
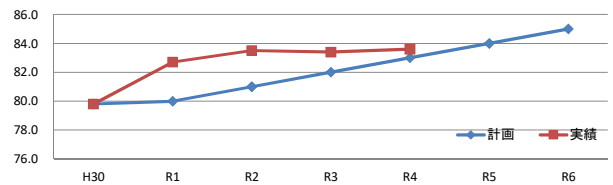
総 体 系 計 画	分野	2	第2章	災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち	施策統括課	危機管理防災課
	施策No.	1	施策名	総合的な防災・危機管理対策の充実	課長名 (施策統括責任者)	上野 良知
	関係課	危機管理防災課 建築指導課 河川砂防課 北部建設事務所 南部建設事務所				

1. 施策の目標

めざす姿 (成果目標)	災害に対応するための消防防災体制が充実しており、市民の防災意識が高く、災害に対する備えができています。
取組方針	風水害や地震災害など、あらゆる災害に対応するため、消防・救急体制の充実や地域の防災力の向上、危機管理対策の充実などに取り組みます。

2. 施策の意図と成果指標

対象（誰、何を対象としているのか）*人や自然資源等	市民						
意図（この施策によって対象をどう変えるのか）	市民の防災に対する意識を高め、普段から地域での協力体制の構築や災害時の備えができるようにする。						
成果指標 A							単位
近所の避難場所・避難所を知っている市民の割合							%
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
79.8	80.0 82.7	81.0 83.5	82.0 83.4	83.0 83.6	84.0 0.0	85.0	
成果指標 B							単位
非常持ち出し袋の準備や室内の地震対策をしている市民の割合							%
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
23.6	28.0 25.8	36.8 26.9	41.2 26.9	41.2 25.9	45.6 0.0	50.0	
成果指標 C							単位
自主防災組織率							%
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
71.0	72.0 76.0	73.0 78.8	74.0 78.9	82.0 83.4	84.0 0.0	86.0	
成果指標 D							単位
-							-
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0	
成果指標 E							単位
-							-
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0	



施策評価シート

3. 市民意向調査結果

施策の重要度	前回	今回	
重要である	67.9%	66.2%	↓
ある程度重要である	24.2%	21.9%	↓
あまり重要ではない	2.0%	2.5%	↑
重要ではない	0.3%	0.8%	↑
順位	1/36位	1/36位	⇒

施策の満足度	前回	今回	
満足している	3.7%	3.2%	↓
どちらかといえば満足	41.3%	41.1%	↓
どちらかといえば不満	34.7%	33.2%	↓
不満である	6.7%	6.5%	↓
順位	29/36位	26/36位	↑

4. 社会潮流等の変化について（第2次総合計画策定時からの市民ニーズの環境の変化、法整備状況等）

平成28（2016）年に熊本地震が発生し、犠牲者の多くが「震災関連死」（全体の80%以上 218人/273人）であったことから、避難のあり方や避難所における備蓄品の見直し等が行われた。特に、令和2年から新型コロナウイルス感染症が拡大したことに伴い、パーティションやベッド類などの避難所資機材が導入され、5類感染症になった後も、プライバシー確保の観点や避難者のニーズにより使用が継続されている。消防団については、引き続き人口10万人あたりの組織率1位を維持しているものの、年々団員数は減少してきている。令和5年度からは、出動手当の個人支給を開始した。

5. 施策を推進していく上での新たな課題、新たな視点

災害の激甚化、局地化などこれまでに経験のない自然災害、特に風水害に見舞われることが続いていることから、市民の生命、財産を守るための避難情報の発令判断に迷う事態が発生している。

6. 施策の課題解決に向けた今後の取組の方向性・内容等

避難情報等発令判断支援機能（システム）の導入や防災関係機関との連携を図り、速やかな情報収集、情報発信を実施し、市民の生命、財産を守るための取組を実践する。